

QUIZ JAPAN

古今東西のクイズを網羅する クイズジャパン
クイズカルチャーブック

vol.10

99人^{超逆境クイズバトル!!}
の壁

特集

千葉悠矢×矢野了平×日高大介／牧原俊幸

佐藤一朗

インタビュー

立ち上がり!
99人の壁!

高校生クイズ
河野雄平

インタビュー

「第3回 Knock Out ~競技クイズ日本一決定戦~」

ニュース・博識甲子園

インタビュー辰巳琢郎/田中健一/松浦シゲキ

辰巳 「QUIZ JAPAN」9号を眺めながら
これ、ずっと連載してるの?

編集(大門) そうです。半年に1冊ぐらいしか出
ない本なんですけど。

辰巳 半年に1冊なんだ! 最初にこの雑誌を見
た時「なんだろう?」と思つて。

— 思いますよね。「クイズだけで1冊作れるん
だ」という。

辰巳 すごいことだよね。……吉田さんはクイズ
好きなんですか?

— ボクは全然なんですよ。

編集 なので、クイズに関する質問は僕がさせて
いたたいて、吉田さんはお仕事なんかに関する質問
をする感じになると思います。

辰巳 いえは辰巳さん! みたいに思われる風潮につい
て、ご自分ではどう受け止めてますか?

辰巳 それはね、昔の栄光です(笑)。元はといえ
ば『たけし・逸見の平成教育委員会』(※1)ですよ
ね。ラサール石井さんと田中康夫さんのふたり天
下のなか、半年遅れて入つてふたりに勝っちゃつた
んでダーツと注目されたという経緯があつて。で
すから、その頃は「教育ママのアイドル」とか「偏差
値俳優」とか、いろんな肩書きがつきました。

— 高学歴でクイズに強い人っていう。

辰巳 そうですね、「高学歴タレント」みたいなも
の走りでしちゃうね。ホントは『連想ゲーム』(※
2)が最初なんです。厳密にいうとクイズかどうか
って難しいところがあるかもしれませんけど、大和
田瑛さんのあとを受けて『連想ゲーム』で3年間レ

ギュラーをやってまして。あれはけつこう好きだ
ったし、すごく成績もよかつたんです。それで「平
成教育委員会」に呼ばれたというのもあるんでしょ
うね。

— ああいう勉強クイズ的なものならイケるんじ
やないかっていう。

辰巳 教科書クイズというか、当時は中学校の入試
問題が中心だったんですよ。中学受験をやつた人間
としては当然簡単なわけです(笑)。僕は中高一貫(大
阪教育大学附属天王寺中学・高校)だったので、人
生で勉強したのは小学校6年生と高校3年生の2
回だけなんですよ。勉強といつても、小学校6年
生の時は試験前の2~3週間でダーツと詰め込んで
いたいな感じです。一応、大学受験の時は1年間
それなりに勉強しましたけど、それ以外はぜんぜん
勉強しませんでした。塾も高3の夏期講習だけ。

— すごいじめに勉強してそうなイメージがあ
るんですけど、実はぜんぜん違うんですね。

辰巳 劣等生でしたからね。当時は大阪いち偏差
値の高い優秀な高校だったから、そのなかでは下か
ら数えたほうが確実に早かつたんで。

— 基本、趣味に生きてた人というか。

辰巳 中学時代は映画ばっかり観てましたし、高
校時代は芝居ばかり。

— その前には詩を作つてた時代もあるわけで
すよね。

辰巳 そういう時代もありましたね(笑)。芝居を
始める前かな。

— あんまりその時代のことが振り返られてない
気がして。最初の著書『青春のヒント』(93年・学

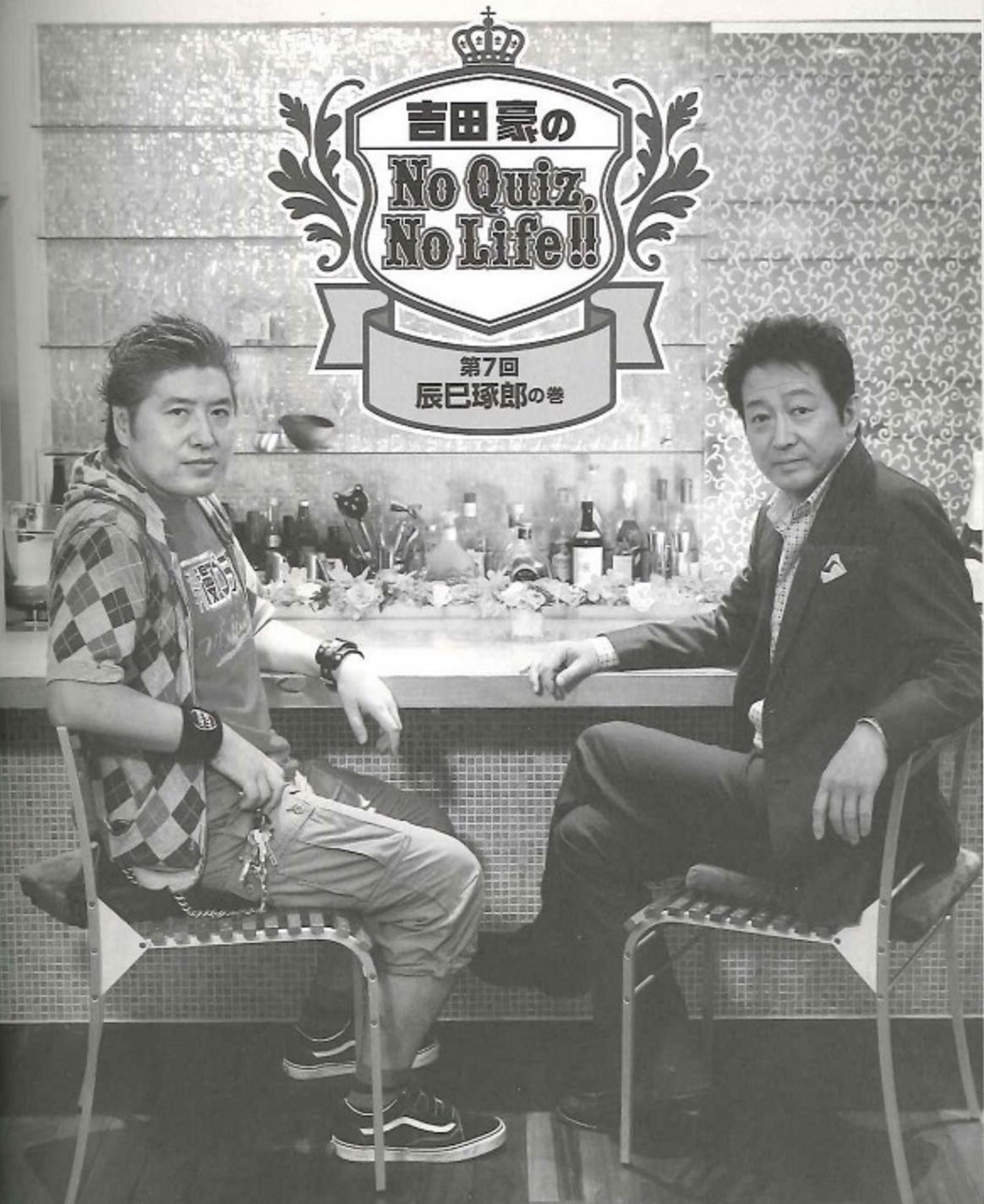
研)には当時の詩集とかまで全部載つてたのに、

比較的最近の『道草のすすめ』(08年・角川書店)
とかではその時代のことがさつそり抜けていたり
とか。

辰巳 そういえばそうですね(笑)。自分の中であ
れは、そんなに大きな今につながるタームではない
ってことなんでしょうね。

— 黒歴史まではいってない感じなんですね。

辰巳 黒歴史とはぜんぜん違いますよ(笑)。むし



プロインタビュー・吉田豪が「クイズにゆかりある有名人に話を聞く」抱腹絶倒の連載コーナー。

第7回ゲストは、京都大学が生んだ元祖芸能界クイズ王・辰巳琢郎!

『連想ゲーム』から『平成教育委員会』『Qさま!!』、

そして現在も放送中の『東大王』に至るまで、クイズ番組での戦い方を大放出!

※1 1991年から1997年にかけてフジテレビで放送されたクイズ番組(逸見政孝の死去に伴い、1994年10月よりタイトルを「平成教育委員会」に変更)。小・中学生が学校で勉強することから出題されるのが特徴。辰巳琢郎は田代まさしと並び、番組史上2位タイとなる「優等生獲得回数12回」の記録を誇る(1位はラサール石井の25回)。

※2 1969年から1991年にかけてNHKで放送されたクイズ番組。男性チームと女性チームによる対抗戦形式の番組で、辰巳は男性チームの一員として、1988年4月から番組終了まで出演した。

※3 創作家・寺山修司が主宰した劇団。唐十郎の状況劇場(通称:紅テント)、佐藤信の黒テントなどとともに、1960年代後半から1970年代半ばにかけてのアングラ演劇ブームを牽引した。

※4 京都大学吉田キャンパスにある施設。運営する西部講堂連絡協議会が認めれば、京大と無関係な人間による企画も実施できることから、ライブ・演劇などさまざまなイベントが行われてきた。

※5 1972年に、状況劇場などで活躍した磨赤児により設立された舞踏集団。体中に金粉を塗った男女が踊る「金粉ショー」で有名。

※6 代表曲に『嫌んなった』『シカゴ・パウンド』などがあるブルースバンド。デビュー曲『おそじオバチャン』がいきなり放送禁止処分を受けたことでも知られる。

※7 「時には母のない子のように」などの曲で知られる女性歌手。元は劇団・天井棧敷に所属する女優だった。

※8 1970年頃に、黒いヘルメットを着用し学生運動を行った組織の通称。「赤」を用いた組織には共産主義者が多かったのに対し、無政府主義者が多かったとされる。主な組織にアナキスト革命連合、日本学生会議など。

※9 かつて大阪・梅田にあった商業施設(現在、その跡地にはファッショングループ「HEP FIVE」が建っている)。8階にあった小劇場「オレンジルーム」は、「劇団そとばこまち」など、数多くの関西の小劇団の公演会場として利用された。

辰巳 琢郎 1958年生まれ。大阪市出身。俳優。京都大学在学中に「劇団そとばこまち」を主宰。ドラマや映画に多数出演する一方で、「連想ゲーム」「たけし・逸見の平成教育委員会」「クイズプレゼンバラエティーQさま!」「東大王」などのクイズ番組に解答者として出演。「決戦!クイズの帝王」ではラサール石井と共に司会を担当。「くいしん坊!万才」の8代目レポーターとしてもおなじみ。
編集 ちなみに、お芝居の現場とクイズ番組の現

だ、そのオレンジルームは阪急の劇場でしたから、「商業資本と結託することは何か!」みたいなことを言われたりしましたね。一方で、新しい小劇団は商業ベースに抵抗はなくメジャー指向でお客さんを増やそうとしてきた。あるいは食える芝居をしなくちゃいけないっていう意識もあって……。その頃から両極端に分かれていきました。そういう時代だったんですね。

——つまり、アングラ演劇に10代で直撃されながらも、

辰巳ええ、10代から20代くらいに。でも、そういう芝居じゃないものを作りたかったんですね。直接影響を受けたのはつかこうへいさん(※10)で。「つか以前、つか以後」って言葉があるほどつかこうへいさんが登場したことは演劇界にとってすごく大きなことで。我々の上の、まだアングラの匂いを残してた世代つていうのが野田秀樹さん(※11)とか渡辺えりさん(※12)。同じ年の鴻上尚史さん(※13)は早稲田にいたからまだそういうものを引っ張つてた感じがしましたけど、その辺から変わつ

てきましたですね。で、我々のあとにマキノノゾミ(※14)とか劇団☆新感線(※15)などが続々と出てきて。まあ、みんな長いことやってますよね。

——84年にNHKの朝ドラ「ロマンス」のオーディションに受かったことで、劇団をやめようつて流れになつたんですか?

辰巳 べつにやめようつていうわけじゃなかつたんですけど……。でも、劇団も7年間やつてましたからね。高校時代の2年間と大学時代の7年間、計9年間もいわゆる学生演劇をやつたんで、ちょっとしばらくは劇団に縛られました。

——NHKのドラマは、演劇とは相当違いました?

辰巳 違うっちゃ違うけど……。でも、我々がやつてた演劇は、それこそ西部講堂なんかでやつてたアングラ演劇なんかよりは、テレビのほうが確実に近かつたんですね。我々が目指してたものは、やっぱりある種のエンターテインメントでしたからね。

そういう意味ではそれほど違和感は……もちろん違和感はいっぱいありましたけど(笑)。例えば新人の頃はNHKのディレクターからいろいろ特訓されたりとか、ダメ出しを受けたりしたんですよ。舞台の芝居と映像の芝居というのはやっぱり、いろいろと違うんですけど、その辺はぜんぜんわからなかつたですから。だから、あんまり昔の再放送は観たくないですね(苦笑)。

辰巳 有名どころでは大駱駝艦(※5)とか、地元では満開座とか。音楽だと憂歌団(※6)とかカルメン・マキ(※7)なんか大人気でした。その頃は反戦フォーク系とかロックとかが流行りで……。

——当時の京大西部講堂はかなり政治的な場所で、時代的にパンク関係も出てきたぐらいの時期だと思いますけど。

辰巳 観ましたよ。当時はいわゆるアングラ演劇の全盛期でしたからね。唐十郎さんの紅テントとか、佐藤信さんの黒テントとか、天井棧敷(※3)とか……。アングラ芝居が輝いてた最後の時代で。

辰巳 辰巳さんは高校生ぐらいから京大の西部講堂(※4)に出入りしてたらしいんですけど、當時は反戦的なをやつてたんですね。

辰巳 有名どころでは大駱駩艦(※5)とか、地元では満開座とか。音楽だと憂歌団(※6)とかカルメン・マキ(※7)なんか大人気でした。その頃は反戦フォーク系とかロックとかが流行りで……。

——当時の京大西部講堂はかなり政治的な場所で、時代的にパンク関係も出てきたぐらいの時期だと思います。



辰巳琢郎 1958年生まれ。大阪市出身。俳優。京都大学在学中に「劇団そとばこまち」を主宰。ドラマや映画に多数出演する一方で、「連想ゲーム」「たけし・逸見の平成教育委員会」「クイズプレゼンバラエティーQさま!」「東大王」などのクイズ番組に解答者として出演。「決戦!クイズの帝王」ではラサール石井と共に司会を担当。「くいしん坊!万才」の8代目レポーターとしてもおなじみ。



るって内容。NHKのBS放送10周年かなんかを記念して始まった、1年間限定・月イチの番組なんですが、あれを作ったのも『ふしき発見!』のスタッフで。

編集 テレビマンユニオンですね！

辰巳 そう、ユニオンの人があつてたんですよ。クイズハンターたちが街中歩きまわって、街の人と触れ合ってクイズを作り出して、番組内のクイズ番組で出題するんだけど……。観たことないでしょ？

——ないです。

辰巳 画期的なんだよ！ 僕、あれを復活させたいなと思ってるんだけど、どこかでやつてくれませんかねえ。あれはおもしろかったです。後半は司会がいて、僕も一応解答席に座って、劇中劇みたいな感じでクイズ番組になってるんです。要するにそこでクイズ問題を評価する。全員が答えられちゃうのは簡単すぎるし、全員がわからないのはつまらない。だいたい2割から3割ぐらい正解が出る、つまり解答者が5人いたら、1人か2人が正解するのがいい問題なんだっていう基準を作つたり。

——辰巳さんがギリわかるぐらいがベストな感じですかね。

辰巳 そんな感じかもしれない。でも、そのなかに情報が詰まつて、かつ驚きがある。あるいは楽しくて、人に話したくなる。そういうのがいいクイズだつていう感じで。……いやあ、あれは低予算だけど、いい番組でしたね。まだ海砂利水魚時代のくじらむしちゅーも出てたんですよ。ディレクターや出演者もがチの真剣勝負でした。あと、「決戦！ クイズの帝王」(※18)という番組は知っていますか？

——辰巳さん、ある時は尾道とか、各地に行つてクイズ問題を作つたり。

辰巳

成にかけては「クイズ世界はSHOW by ショーバイ！」とか「なるほど！ ザ・ワールド」なんかが全盛で、あと「クイズダービー」なんかもありましたけど。その辺はあんまり縁がなかつた。「ふしき発見！」は何度か出たかな。「平成教育委員会」でそれなりにクイズ王的なイメージがついたあとに呼ばれ。そうそう「ふしき発見！」ではリポーターもやらせていただきました。あの番組はリポーター

編集 はい、テレビ東京の番組ですね！

辰巳 そう、ラサールさんとふたりで司会してた。でもやつぱり、答えるほうが楽しいね。まあ、問題を出すのもおもしろいし、作るのもホントにおもしろいと思うんですけど。……それにしても、クイズに関してはいろんなことやつてますよね。クイズは最高のエンターテインメント、できるかぎりやり続けたいですね。吉田さんはどんなクイズ番組が好きですか？

——「平成教育委員会」ぐらいまでしか見てないんですよ。その後、仕事が忙しくなつてテレビをほほ観られなくなつちやつたんで。

辰巳 あれはもう四半世紀前ですね。

——そこはたけさんの発想なんですかね。

辰巳 さあ、僕は途中からのレギュラーだからよく知らないんですよ。最初はラサールさんと田中康夫さんが優等生の椅子に座つてしまつたから。たけしさんが優等生の椅子に座つてしまつたから。たけしさんはすごく算数ができる人なんですね。そういう間に、明石家さんまさんとか所ジョージさんとか何人かが代わる代わる司会をやつた頃があつて。でも、彼らは算数が苦手なので、問題を説明したりツッコんだりできないんですよ。番組回しはお手のものだけど、その辺はたけさんの違ひだなという。それが悪いとかではないけど、そこに合

わせて問題も変わらざるをえなかつた。

——たけさんは自分の本で、それに近いことを書いてましたね。

辰巳 ホント？

——「さんまさんは東大生とかと絡む時も、知識に基づいたツッコミじゃなくてキャラクターのイジりになっちゃうんだ」という。

辰巳 書いてましたか、それ。たけしさんあつての番組でしたね。……でも、あの番組は途中で逸見政孝さんが亡くなつたり、いろんな思い出があります。実はその前に、プロデューサー(越真一)が自殺しちゃつたり。

——え！

辰巳 他殺じゃないかという噂もあつたんですけど。あの番組を作つたイーストのプロデューサーがビルから飛び降りたんです。ある種「おばけ番組」でしたから、それなりに負荷がかかつたんじゃないかな。僕はそんな感じで理解してるんですけど。大ヒットする番組つていうのはそういう風に誰かの運気を吸いつつでしまうのかもしれない。でも、僕はあの番組のおかげで売れたというか……。

——人生が変わつたわけですね。

辰巳 その前に「辰巳琢郎のくいしん坊！ 方才」があつて、途中から「平成教育委員会」に出るようになつて、そのあたりでようやく広く世間に名前が知られるようになりました。コマーシャルも次々に来始め、それなりに生活ができるようになつてきました。そういう意味では「平成教育委員会」には感謝してもしきれません。

——芸能生活でクイズにめぐり会わなかつたら、

みたいなことは考えます？

辰巳 あんまりそういう考え方ではないんですよ。逆に「めぐり余うべくしてめぐり会つたんだろうな」というか。クイズ 자체がもともと大好きでしたから。だから、朝ドラとか大河ドラマの出演が決まつた瞬間よりも、「連想ゲーム」のレギュラーに抜擢されたことのほうがうれしかつたみたいな感覚なわけですよ。

——そつち！

辰巳 だから、「もし出会わなかつたら」とかそういうことはあんまり考えたことがないですね。それをアレンジするのなら「どのタイミングで出会うか」というくらいで。そういう意味では、クイズにも「くいしん坊！ 方才」にもちようどい時期に出会えたのかな」と。「辰巳琢郎のくいしん坊！ 方才」って、フジテレビが三冠王だったこともあって、歴代で一番視聴率がよかつたんですよ。だから、いまだに「食いしん坊！ 方才」って言われます。僕が人気があったからじゃなくてフジテレビが強かつたから。まさに黄金時代でした。(東京ラブストーリー)「1」とか「101回目のプロボーズ」の後、9時54分からの「くいしん坊！」って言われます。僕が人気の視聴率が最高28%を超えていた。

——前の番組からそのまま観るから。

辰巳 そういう時代、たつたんですよ。そういう意味ではものすごくラッキーだったと思いますね。以前、ネットで歴代「くいしん坊」の人気投票があつて、2位になつてましたね。

辰巳 僕が2位？ 1位は誰なんですか？ やつ

ぱり(松岡)修造くん?

— ですね。

辰巳 まあ、彼は10年以上やっていますからね。……

ともあれ、「くらしん坊」と「教育委員会」、その2本が芸能界といわれるところに入ってきた転機といえば転機ですね。

— 30歳ぐらいまでは「この仕事を続けるべきなのが」なんて悩んでたみたいですね。

辰巳 それはよくありましたね。そのあたりましたけど。やりたいことが常にいっぱいあったので、「ホントにこれでいいのかな」という。ずっと劇団をやっていたので、その作品全部に觸わりたいという意識がどうしても強かったんですね。

— そもそも演劇にしても、プロデュース的なことをやるほうが好きなわけですよね。

辰巳 そうそう、演出もやってましたしね。俳優といふ仕事はごく一部なんですよ。僕は「平成教育委員会」である程度名前が知られて、そのあとに「浅見光彦」シリーズにつながっていくんんですけど、時代ごとにいろいろあって、いろんな要素が含まれてたんですよ。トレンドディドramaはバブルの頃、80年代後半くらいで、僕がデビューしたのは84年。でも僕はバブルの恩恵をあまり受けられませんでした。

— 意外と同世代の人にはバブルを潤滑して。
辰巳 大変なものだったと思いますよ。それでも、まだ番組で海外ロケとかショッチャうあつた頃ですから、そういうのは少し経験させていただきました。でも、どつかといったバブルが弾けて地に足の着いた人を使おうと思つてくれた、そういう時代

だつたんじゃないでしょうか。デビューしてからしばらくは鳴かず飛ばずだったけど、わりとのんびりしてたような気がしますね。苦労したとか、つらかったっていう思い出はそんなにないです。

— それなりに仕事はあつて。

辰巳 ちょうどその頃に結婚して子供ができるんですけど、それなりに仕事は続いてましたから。まだテレビも元気だった頃だから、そんなに大きな役じやなくともそれなりにギャラをもらえてたりして。それで生活ができるんでしょね。「連想ゲーム」の仕事が始まつたのが30歳前後でしたから、ちょうどその時期なんですよ。「平成教育委員会」が33～34歳かな。ついこないだみたいですね。

— 正直、実年齢を知つて驚きましたからね。
60歳なんだ! って。

辰巳 経産大臣の世耕(弘成)さんが中高の後輩なんですが、選舉のバーティーの時は彼がスピーチしてくれて。「最新の医学的な分析では120歳まで生きられるから60歳はちょうど折り返しですね」みたいな話をしてたんですけど、いまはそんな気分ですね。長生きできる時代になつたから、これはいい時代だと思って。長い人生のマラソンのようにやく折り返し地点つていう気分でいます。まだクイズも楽しめますし。「勉強しなくてもいいよなクイズ」というか、そこそボクシングとか柔道みたいな体重別じゃないけど年齢別とか、そんなクイズ番組もやってくれないかなと思つてゐるんですけど(笑)。

— 無差別はさすがにしんどい。

辰巳 そりやあしんどいですよ、やっぱり。

— 本気でそっちの練習してる人と同じ土俵で闘うのは。

辰巳 そうそう。

編集 でも、「Oさま!!」「東大王」「タイムショック」と「しんどい無差別級ばっかり呼ばれますよね」。

辰巳 そうですね(苦笑)。そういう番組の中では、「雑学王」(※19)はあんまり成績よくなかったな。「Oさま!!」なんかはハマッたら取れるんですけどね。ホントはどんなクイズが来ても対応できません。ホントはどんなクイズが来ても対応できません。ちやいけないのかもしれないけど。

編集 でも、辰巳さんは毎回、クイズ番組で爪跡をキツリ残されてきて次につなげてこられますよね。

辰巳 そらかな? 自分ではあんまり爪跡を残してたっていう意識は……まあそれなりに、たまーに優勝して、たまーに近くところで答えてればいいんですよ。全部に答えられるわけないんで。オンエアはほとんど観ないから、どういう形で映つているかわからないんだけど。……そろいえ、たまたま生きられるから60歳はちょうど折り返しですね」みたいな話をしてたんですけど、いまはそんな気分ですね。長生きできる時代になつたから、これはいい時代だと思って。長い人生のマラソンのようにやく折り返し地点つていう気分でいます。まだクイズも楽しめますし。「勉強しなくてもいいよなクイズ」というか、そこそボクシングとか柔道みたいな体重別じゃないけど年齢別とか、そんなクイズ番組もやってくれないかなと思つてゐるんですけど(笑)。

— 無差別はさすがにしんどい。

辰巳 そらかな? 自分ではあんまり爪跡を残してたっていう意識は……まあそれなりに、たまーに優勝して、たまーに近くところで答えてればいいんですよ。全部に答えられるわけないんで。オンエアはほとんど観ないから、どういう形で映つているかわからないんだけど。……そろいえ、たまたま生きられるから60歳はちょうど折り返しですね」みたいな話をしてたんですけど、いまはそんな気分ですね。長生きできる時代になつたから、これはいい時代だと思って。長い人生のマラソンのようにやく折り返し地点つていう気分でいます。まだクイズも楽しめますし。「勉強しなくてもいいよなクイズ」というか、そこそボクシングとか柔道みたいな体重別じゃないけど年齢別とか、そんなクイズ番組もやってくれないかなと思つてゐるんですけど(笑)。

— 現場ではもつと厳しい。

辰巳 厳しい厳しい! でも視聴者は、そのままオノエアしたらついていけないでしょ。だから、その前半と出した瞬間とかにみんなボタンを叩いて答えていて。

— そういうものなんですね。あと、芸能界的なエピソードでいえば、「平成教育委員会」以前に欽ちゃん(教本欽一)の番組のレギュラーをやつたじゃないですか。

辰巳 ありましたねえ、「ドキドキ欽ちゃんスピリッツ!!」(※20)。貴重な体験ですね。芝居というものの考え方をせんせん違う画面から教わることがで、ものすごく勉強になりました。大将は変に論理的な人ですね。……観たことがあります?

— はい。

辰巳 あの番組って、収録が終わってからメイク室に出演者が集まつてずっと反省会をするんです。反省会というものは名ばかりで、いろんな演技論とかお笑い論とかを、ずっと大将がしゃべつてるの。だから、みんな帰りたいけど帰れない(笑)。大将は「楽しい仕事つて、帰りたくないんだよねー。俺はつまんな仕事だとすぐ帰っちゃう」って言つて、ずっといるんですよ。余韻を楽しんでるんでしょう。大将とはそんな感じで、レギュラーやってる時はいろいろ話しましたね。たけしさんともレギュラーラーで毎週じゃなかつたし、そんなに深く話したことはできなかつたですね。

— 欽ちゃんもたけしさんも知つてた爆笑問題



辺は親切に編集が入つてます。あんまりこういう裏話をしていくかわからないけど、そういう演出はいろんな番組あるんです。ただ、昔は「ちょっとと解答を教えておこう」みたいなのもあつたで聞きますけど、いまはそれが全くないんですよ。代わりに、ある程度事前にリサーチをして、「この解答者はこのへんの問題が得意だろうな」とか「これは難しいだろうな」という感じで、活躍させたい人寄りの問題を出したりとかはやつてると思います。それが今、できる唯一の演出でしようね。

— いまのテレビはそういう感じですよね。

辰巳 だから、優勝できるのはスタッフが「優勝させてやろう」と思った時。「この人向きの問題を出してやろう」という付度がある時しか本当の実力がない我々は優勝できないです(キッパリ)。

— そうなんですか!

辰巳 そういうのがないと、なかなか勝てないもんですよ(笑)。

編集 でも、「東大卒タレント」みたいな方がいくばい出てくるんですけど、見せ場なく敗退していくことが多いじゃないですか? それに対し、辰巳さんとか宮崎美子さんは必ず見せ場を作られる。そこがレジエンド世代の強みといふか。

辰巳 それは、ある程度番組になつた時、彼らが活躍したところをカットして、こっちのいいところを残したりしてくださるわけですよ。

— え!

辰巳 たぶんね。だって、視聴率的にはある程度、名前が売れた人が活躍して、映つてる時間が長いほうがいいと思いませんか? 「こいつ誰?」みた

辰巳 あの番組って、収録が終わつてからメイク室に出演者が集まつてずっと反省会をするんです。反省会というものは名ばかりで、いろんな演技論とかお笑い論とかを、ずっと大将がしゃべつてるの。だから、みんな帰りたいけど帰れない(笑)。大将は「楽しい仕事つて、帰りたくないんだよねー。俺はつまんな仕事だとすぐ帰っちゃう」って言つて、ずっといるんですよ。余韻を楽しんでるんでしょう。大将とはそんな感じで、レギュラーやってる時はいろいろ話しましたね。たけしさんともレギュラーラーで毎週じゃなかつたし、そんなに深く話したことはできなかつたですね。

の太田光さんとかが言うのは、「欽ちゃんのほうがあきらかに頭がおかしい」っていう。

辰巳 頭おかしい(笑)。

—ボクも取材してそれは実感しました。「たけ

しさんのほうが常識人だな」というぐらいの。

辰巳 たけさんは理系の頭でちゃんと組み立て

るけど、大将は非常に感覚的な人で、ホントに話が

どこにいかわらない。でもすごく説得力があ

る。あの番組は半年か1年でしたけど、楽しかった

ですよ。それまでは自分たちだけで好きなように芝居やってましたから、あんまり先生みたいな人は

いなかつんですね。で、芸能界に入って、ドラマ

の世界には演出とか監督さんがいたわけですが、

演技の本質みたいなことを教えてくれたのは大将

が一番だった気がします。(QUIZ JAPAN)

9号の伊沢インタビューを見ながら)しかし、こん

なインタビューとかもおもしろいよね。

編集 伊沢君は「いかにテレビという場で爪跡を残

すか」みたいな努力の話なんかをしてますね。

「持ってるタレントのみなさんの相手をする上で、

僕ら素人ができるのはこういうことです」みたいな

こととか。

辰巳 フフフ(笑)。でも、彼らもだんだんタレント

化してきちゃいますからね。これからどうするん

でしょう。

編集 伊沢君はいまワタナベエンターテインメン

トに所属してるんですよ。で、水上君も(18年)7

月ぐらいから所属するようになって。

辰巳 ふたりだけ? (鈴木)光ちゃんは?

編集 本人にその意見がないんじゃないですかね。

— クイズ番組に出たり、ドラマに出たりしてる
人じゃないとわからない。

辰巳 だって、基本的にテレビ観ないから。スポー

ツとかニュースは観るけどね。だから自分が共演

した人は覚えるけど、それ以外はホントにダメ!

編集 クイズ番組でそういう問題が出されると、け

っこうビンチになるんですよね。

辰巳 ボロボロ取りこぼすんですよ、そういうの

は。でも、そんなの、わかるわけないじゃないですか。

だから、最初から捨ててます。チーム戦の時は

「あー、みんな頑張ってね」って。……こんなこと言

うと失礼だけど、僕はいまだにダントンといえ

ばブギウギバンドで。
—そっち(笑)。

辰巳 「これだつたら絶対勝つ」みたいなのではない

から、どれもあんまり向いてるなと思わないんだ

けど。ただ、「ミクフル」は楽しいですね。まだ

一度も100万円獲れませんが。あと、どの番組

に出てるなと思われるはどれですか?

編集 いま出されているクイズ番組で、自分が一番向

いてるなと思われるはどれですか?

辰巳 「これだつたら絶対勝つ」みたいなのではない

から、どれもあんまり向いてるなと思わないんだ

けど。ただ、「ミクフル」は楽しいですね。まだ

一度も100万円獲れませんが。あと、どの番組

に出てるなと思われるはどれですか?

辰巳 「あー、もちろん浜ちゃんも松ちゃんも知

ってるしわかるんですよ。でも、若い頃の刷り込み

というか、ダントンといえば即座にブギウギバ

ンド(笑)。

辰巳 宇崎竜童だよねっていう。

辰巳 学生時代に「ザ・ベストテン」とか「夜のヒッ

トスター」とかよく観てましたし、劇団の芝居で

歌謡曲いっぱい使ったんですよ。例えば『熱海殺人

事件』のクライマックスシーンで、バックにジユリ

たぶんクイズは大学時代限りのもので、弁護士にならういう確固たる意思があるんじゃないかな。

辰巳 (ページをめくりながら)鶴崎君はIQが165もあるんだ、すごいね。

編集 彼は大学院で数学の研究をしているみたいですね。イベントに出てもらつたら、待ち時間にずっと英語の数学の本を読みました。

辰巳 大変な世界に行くな。数学は大変ですよ。だって、一生のうちにひとつ公式が作れるか新しい発見ができるかの世界ですからね。ただ、僕も『平成教育委員会』でも算数ができたから注目されたわけで、何が幸いするかわからない。

編集 「東大王」ではオセロで活躍されていますよね。

辰巳 オセロはもう勝てないね。彼ら勉強してるから「苦笑」。あと、演出とちょっと話をしたんですけど、オセロって統計を取ると確実に後攻が有利なんですよ。これが一番の問題で。しかも「東大王」のオセロは6×6で、普通の8×8よりももっと短いから、後攻のほうが絶対有利なんです。……まあ、オセロはそんなに統かないんじゃない? あいのちは連續でやつちやダメ。たまに出てくるぐらいじゃないと。そうしないと、彼らまたどんどん勉強しちゃうから。

編集 いま出されているクイズ番組で、自分が一番向いてるなと思われるはどれですか?

辰巳 「これだつたら絶対勝つ」みたいなのではないから、どれもあんまり向いてるなと思わないんだけど。ただ、「ミクフル」は楽しいですね。まだ一度も100万円獲れませんが。あと、どの番組

に出てるなと思われるはどれですか?

辰巳 「あー、吉田さんはもつと若い

ね(笑)。そういうの前、知的障害者の方たち

が語り合つて「この仕事があった時、司会者が今

日の歌どうでしたか?」なんて話を振ってきたんで

ね。で、僕は「ミュージカル仕立てで歌つて踊つたりするんで、いろんな権利関係もあるし、よりも

は使わないだろう」って先入観があつたんだけど……あれ、なんだっけ?

スタッフ ゆずの「栄光の架橋」とKiroroの「未来」ですね。

辰巳 そう、その曲を使つたんですよ。でも、ぜん

つぜんわかんなくて。だからトークショーの中でも

「あの曲どうでしたか?」って聞かれた時、「あんま

り興味ないんで知らなかつたんですけど、皆さんは

知つてるんですか? お客様は知らない人も多

いですよね? 知らなかつた人って言つたら、手

を挙げたのはひとりかふたりだけで。

スタッフ それ以外の方はみんな知つてるわけ。しか

も「ゆずってひとりだけ?」なんて聞いちゃって。しかも半分ショックでね、自分で呆れて。

辰巳 それ以外の方はみんな知つてるわけ。しか

も「ゆずってひとりだけ?」なんて聞いちゃって。

辰巳 ホントそうなんですよ。でもボルノグラフ

イティはよく知つてますよ。(新藤)晴一に僕のワ

イン番組に出てもらつたから。でも、ゆずは会つて

ないから知らない。そんなもんなんですよ。そういうのは全然ダメ。

—そっちは興味がない?

辰巳 興味ないんでしようね。……なんですかね(笑)。そういうの前、知的障害者の方たち

が語り合つて「この仕事があった時、司会者が今

日の歌どうでしたか?」なんて話を振つてきたんで

ね。で、僕は「ミュージカル仕立てで歌つて踊つたりするんで、いろんな権利関係もあるし、よりも

は使わないだろう」って先入観があつたんだけど……あれ、なんだっけ?

辰巳 そう、その曲を使つたんですよ。でも、ぜん

つぜんわかんなくて。だからトークショーの中でも

「あの曲どうでしたか?」って聞かれた時、「あんま

り興味ないんで知らなかつたんですけど、皆さんは

知つてるんですか? お客様は知らない人も多

いですよね? 知らなかつた人って言つたら、手

を挙げたのはひとりかふたりだけで。

辰巳 それ以外の方はみんな知つてるわけ。しか

も「ゆずってひとりだけ?」なんて聞いちゃって。

辰巳 ホントそうなんですよ。でもボルノグラフ

イティはよく知つてますよ。(新藤)晴一に僕のワ

イン番組に出てもらつたから。でも、ゆずは会つて

ないから知らない。そんなもんなんですよ。そういうのは全然ダメ。

— そのレベル(笑)。

辰巳 ホントそうなんですよ。でもボルノグラフ

イティはよく知つてますよ。(新藤)晴一に僕のワ

イン番組に出てもらつたから。でも、ゆずは会つて

ないから知らない。そんなもんなんですよ。そういうのは全然ダメ。

— だいぶ早い段階で説めましたね(笑)。

辰巳 それは「もう知らないでもいいんじゃない

か」と思つてるからなんでしょうね。だって東京に

出できて、この世界に入つてから忙しいのもあって

テレビをあんまり観なくなつてしまつて。だから

芸能の問題はぜんぜん。20年ぐらい前は「覚えた

ほうがいいかな」と思つて、スポーツ新聞の芸能欄

※10 劇作家・演出家。慶應大学在学中から戯曲の執筆をはじめ、1970年代の演劇界に一大ブームを巻き起こした。戦後生まれの作家として初めて直木賞を受賞したことでも知られる。

※11 劇作家・演出家。東京大学在学中に「劇団夢の遊戯社」を結成し、小劇場運動・第三世代の中心的な存在となる。2009年より東京芸術劇場の初代芸術監督を務めている。

※12 女優・劇作家・演出家。1978年、もたいまさこらと「劇団200」を結成。現在は劇団「オフィス300」を主宰する。

※13 劇作家・演出家。早稲田大学在学中に小劇場運動・第三世代を代表する劇団のひとつ「劇団第三舞台」を結成。2016年より日本劇作家協会の会長を務めている。

※14 劇作家・演出家。同志社大学を卒業後、1984年に劇団M.O.Pを結成。2002年にNHK朝の連続テレビ小説『まんてん』の脚本を手がけ演劇界以外にも広く知られることになった。

※15 1980年に大阪芸術大学の学生を中心に設立された劇団。古田新太・渡辺いっけい・竟利夫・藤吉久美子・羽野晶紀ら、多数の俳優を輩出した。

※16 「週刊ポスト」連載のやくみつるの漫画『マナ板紳士録』第1222回(2017年5月19日号掲載)のこと。「老人となつたやくみつるが、辰巳琢郎・竹下景子らクイズ番組で活躍した芸能人だけが生活している老人ホームに入居する」という内容で、「静かに余生を過ごせると思ったのに、先に入居していた「伝説のクイズ作家」道高岳史が問題を出してくれるでの、全然やすらげない」というオチ。

※17 1999年3月よりNHK-BS2で、月1回のペースで1年間にわたり放送されたクイズ番組。「全国出張クイズ作り選手権」を語った番組で、全国各地を訪れたタレントが「クイズメーカー」として現地取材によりクイズを作成、その出来を競い合つた。辰巳はパイロット版の『走れ! 探せ! 出題せよ! クイズメーカー IN上野』も含め、すべての回でクイズマエストロを担当。

※18 「最高賞金1000万円」を語る文句に、1996年から1997年にかけて放送されたテレビ東京のクイズ番組。「各回の優勝者は賞金1000万円を獲得するとともに、次回放送に『帝王として出演する権利を得る』というルールだったため、1000万円を獲得するには10週連続で勝ち抜く必要があった。

※19 2010年4月、番組タイトルが『クイズ雑学王』から『雑学王』へと変わったのを機に、知識自慢の芸能人が期間内の通算正解率を競う形式へとリニューアル。辰巳は4月~6月に放送された「シーズン1」に登場し、10人中5位の成績を残した(シーズン1の優勝者は宮崎美子)。

※20 1986年から1987年にかけて放送されたTBSのバラエティ番組。『笑っていいとも!』の「テレフォンショッキング」に出演するため体操選手引退を表明したロス五輪の金メダリスト・森未慎二が、本格的なタレント活動をスタートさせた番組として知られる。

を読んだりした時期もあったんですけど。でも、いつの間にか見なくなつて……。結局、興味がないんだろうね(笑)。あと、クイズで「このグループは何人?」とかいう問題がよくあるじゃないですか。「モニング娘。はいま何人?」とか。「え、そんな

旬の食材に出会えたというのは大きいですね。で、今回出した『やっぱり食いしん坊な歳時記』って本には、食べるものに対する思い出とか考察が詰まっています。

辰巳 あんまりちゃんとしたことしゃべれない自分が悪いなと思いつつ、今日のことをうまくまとめてもらえたうれしいです。あと、「やっぱり食いしん坊な歳時記」はクイズのネタの宝庫なんで、ぜひ紹介してください！ じゃあ、クイズやつてみますか、ほら！（クイズページを開いて、いきなりク

イズ大会スタート)。

國立 クイズのプロの目から見で、どうでした？

編集：三浦久美子

四庫全書

編集

辰巳 そういう問題でしょ。こちら失敗してしまいます。ホントにわかんないから。でも、それはそれで仕方ない、いまさらクイズのために興味のないことを見てもね。そこはもういいでしょ。

——基本、興味のあるトピックは強調せよ

辰巳 やつぱり、興味のあることは掘り下げよう

とするやうだ。美味いものは特に(笑)。

「腰包ちゃんは超吸がで、『何事』いから」のイメージがあります。

辰巳 まあ、いろんなことに興味がありますね。仕

事から始めた趣味とかもありますけど。田舎なら、まつ葉音頭など覚えて、それから芝居を練しく

がは因基番組で貰えで
なつていきましたしね。

——当然、『くじん坊！万才』をやつてれば余

事にも詳しくなつていくし。

辰巳 それは「くいしん坊！万才」をやつたからで、ほなうけど（笑）。でも、あの番組で各地の新鮮話

